

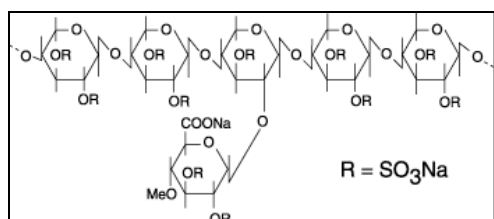
プリオン病に対する体内埋め込み型微量注入器具を用いた
ペントサンポリサルフェート脳室内持続投与療法

研究分担者： 福岡大学医学部 神経内科 山田達夫、坪井義夫

ペントサンポリサルフェート脳室内持続投与療法の開発

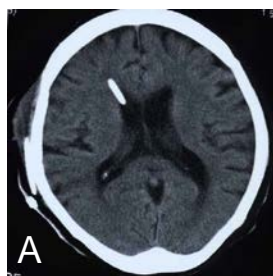
1. ペントサンポリサルフェート (PPS) の構造および特性

ヘパリン類似の活性を有し、プリオン病動物感染実験で、発症遅延効果と認めた。免疫組織で、脳のPrPsc蓄積を抑制。既に全身投与の安全性(関節炎、膀胱炎に臨床応用)が確立されているが、血液脳関門を通過しない



2. ペントサンポリサルフェート脳室内持続投与療法

脳室にカテーテルを留置し (A : CT、B : 頭部X-p)、腹部に持続注入ポンプを埋め込み、カテーテルを通じて24時間脳室内にPPSを注入する (C : 腹部X-p)



3. 11例の治療成績 *: dead

No	Age at surgery	Gender	Diagnosis	Date of Surgery	PPS dose Initial/Final (μg/kg/day)	Duration from the onset (M)	Survival from the surgery (M)
1	67	F	sCJD	2004/11/16	1/120	9	17*
2	73	F	sCJD	2005/3/1	2/120	3	20*
3	68	F	sCJD (MM2)	2005/6/2	10/120	6	50*
4	64	F	fCJD (V180I)	2005/6/21	10/120	4	65*
5	64	F	sCJD	2005/11/14	10/120	3	26*
6	55	M	iCJD	2006/3/13	10/120	10	4*
7	66	M	iCJD	2006/6/12	20/120	3	9*
8	69	F	GSS (P102L)	2006/8/2	20/120	6	14*
9	73	F	fCJD (V180I)	2006/10/15	20/120	7	52
10	68	M	sCJD	2007/3/7	20/120	4	18*
11	39	F	sCJD	2007/4/3	20/120	20	44

解説

1. プリオン病に対するペントサンポリサルフェート脳室内持続投与療法の開発を行い、2004～2007年までに11例に同治療を施行。
2. 5例において術後2年以上の長期生存があり、うち2例はまだ治療継続中である。